

学術集会報告

主催 卒後教育委員会

企画 にじいろ活動推進チーム (SOGI 普及・啓発 WG)

令和6年9月24日 於 埼玉医科大学毛呂山キャンパス

本部棟・1階 第3講堂, 地下1階 第5講堂

当事者が抱える課題・悩み そして医療に求めること

宮田 瑠珂

(LGBTQ+ 施策推進コンサルタント・順天堂大学多様性推進アドバイザー)

2024年9月24日, 毛呂山キャンパス 本部棟1階 第3講堂・学内LIVE配信にて, 第1回 SOGI (LGBTQ) に関する研修会, 「当事者が抱える課題・悩み そして医療に求めること」を開催した。

オープニングリマークスでは埼玉医科大学病院篠塚望病院長, 第1部講演「当事者が抱える課題・悩み そして医療に求めること」宮田瑠珂, 第2部パネルディスカッション「SOGIに関して医療現場において取り組んでいくには」として宮田瑠珂, 松尾幸治, 木内恵子, 綿貫誠, クロージングリマークスとして埼玉医科大学名誉学長山内俊雄先生という構成で実施した。

最後の山内先生のご挨拶では, 参加した感想を簡単にお話しただけとお願いしていたが, 1998年の性別適合手術に関連した内容も含め, 丁寧にスライドまでご準備くださり, ミニレクチャーもしてくださった。締め言葉として格調高いものとなり, 会全体が締まった。

参加者は, 当日の現地及びLive配信視聴者を含め医師93名, 看護師128名, 基礎系教員15名, メディカルスタッフ54名, 事務職員49名, その他10名, 合計349名, その後のオンデマンドで106名の合計456名と大盛況だった。

そのうち, 埼玉医科大学総合医療センターから29名, 国際医療センターから41名と多方面からご参加頂いた。

参加後のアンケートでは, 満足度も満足69%, やや満足20%, 普通10%, 不満1%と約90%の参加者が満足され, SOGIに対する考え方や見方に変化があったかについては, 72%が「はい」と回答された。SOGIに対する考え方や見方に変化に関しての具体的な内容を自由記載で求めたが, 199名の方から非常に多くの感想や意見を寄せてくれた。例えば, 正解がありそれを実行すれば良いわけではなく, 個別に丁寧に考えて行動することの重要性を認識したこと, これまでLGBTQは変わり者と思っていたがそうではなく, 一つの個性であることと見方が変わったこと, 無意識であってもアウトティングの危険性があるためコミュニケーションには細心の注意が必要なこと, 支援者の可視化の必要性があること, 院内SOGI活動は病院という組織全体で受容していくことが重要であること, などがあった。企画者が意図したこと以上に多くの気づきが得られたご意見を頂戴し, むしろアンケートを通じてこちらが多くを学ばせてもらった。

(文責 松尾幸治)

学術集会報告

主催 埼玉医科大学病院 リハビリテーション科

令和7年2月3日 於 埼玉医科大学毛呂山キャンパス 本部棟1階 第3講堂

攻めのリハビリテーション治療とその先へ

酒向 正春

(医療法人社団健育会 ねりま健育会病院)

2025年2月3日にねりま健育会病院、病院長の酒向正春先生を招聘し、「攻めのリハビリテーション治療とその先へ」についてご講演頂きました。

会の前半は、主に脳梗塞・脳出血後のリハビリテーションについて豊富な臨床系経験と画像診断を踏まえた内容でした。長期間リハビリを行っても改善に乏しい症例があります。CT画像所見で内包の障害がなければ、廃用の影響も考えられるため、7時から21時までの完全離床という、リハビリテーションを行っている関係者でも難しさを感じ

る内容でした。実際の多くの症例で運動機能や日常生活動作(ADL)の改善を示して頂きました。改めて、離床・患者さんを起こしていく基本的な事の重要性を感じました。

また、7時からの完全の離床のためには、睡眠導入剤の内服時間のコントロールや、医療現場で問題となっているポリファーマシーの問題も関係しています。これらの解決のためには、医師のトップダウンではなく、むしろ医師は逆三角形の一番下に位置するくらいで、療法士、看護師、薬剤師等の多職種連携での取り組みが大切とお話頂きました。

後半は、病院の中の取り組みだけではなく、リハビリテーションのための街づくりの内容でした。酒向先生は、行政等と連携をとり、初台リハビリテーション病院周辺の安全に24時間歩くことのできる歩行環境の整備を行い、また、同様に二子玉川駅周辺の環境整備、練馬区大泉学園での複合施設の設立に関わっています。これは、リハビリテーションは病院の中で訓練として行うことだけではなく、継続して行っていくためには、買い物やおしゃべりをしながら楽しく行うことが大切であると説明されました。実際に、整備される前後の写真をみせて頂きましたが、歩道の幅の広さ、夜間でも明るい歩道や緑化や休憩やイベントを行うスペース等、リハビリのためだけではなく、全ての人にとって有意義な取り組みとなっていました。これからのリハビリは病院のなかで完結するものではなく、街全体で取り組んいくものとなっているのだとご講演頂きました。

(文責 前田恭子)

